

女性医師 地域にささげた生涯

西川町 映画化目指し会員募集

昭和初期、無医村だった大井沢村(現西川町)で診療を行い、地域医療を支えた医師の志田周子^{しだ しゅうこ}さん(1910〜62年)の映画化を目指す動きが進んでいる。西川町が中心となって、来年2月に「志田周子の生涯を銀幕に甦^{よみがえ}らせる会」(仮称)を設立予定で、会員を募集している。



大井沢診療所での志田周子さん(1959年撮影)＝西川町提供

同町教委によると、志田さんは左沢町(現大江町)出身。東京女子医学専門学校(現東京女子医大)を卒業して医師免許を取得後、大井沢村長だった父親に請われ、24歳で大井沢診療所で働き始めた。当時の村は、冬場は雪に閉ざされ、「陸の孤島」とも呼ばれていた。村唯一の医師として診療や子どもたちの健康診断にあたる一方、後年になると村の婦人会長も務め、1954年(昭和29)に周辺3村と合併し誕生した西川町では女性議員の第1号になった。生涯独身を通し、アララギ派の歌人としても名を残し、がんを患って死去するまで地域の振興に尽力

した。

西川町では2010年、志田さんの生誕100年を記念して、町民や町、県などが「やまがたの宝『志田周子』資源活用化実行委員会」を組織した。映画化を視野に入れ、残っている資料を整理したり、講演会や大井沢診療所の一般公開をしたりするなどしてきた。

しかし、映画作りには人的支援や資金面で多くの協力が欠かせず、同実行委では、県内外に賛同者を呼びかける「甦らせる会」を作ることを決めた。事務局の同町教委生涯学習課の後藤忠勝課長は、「地域おこしになるような映画を作りたい」と話す。

「甦らせる会」の設立に向けては、11月10日に同町で準備会が開かれる。会にはすでに約130人が集まっている。地元住民以外にも、東京女子医大のOGや脚本家、プロデューサーなどが名を連ねる。

会費は無料。問い合わせは、同町教委生涯学習課(0237・74・3131)。